

●特集 今年も、『せたがやチャイルドライン』夏の特設電話

日本ではじめての「チャイルドライン」サポートシステム「チャイルドライン」。

今年も夏の特設電話とは別枠で、フリーダイヤル電話も増設した。世田谷の子どもの声を受けました。



せたがやチャイルドライン広報編
2013年9月発行
★発行・連絡先★
社会福祉法人世田谷ボランティア協会
せたがやチャイルドライン運営委員会

きこい せたがやチャイルドラインです

みんな、夏休みはどうだった？ 夏休みは楽しかったかな？ 学校が楽しかったかな？ 友達と遊んだかな？ 夏休みは楽しかったかな？ 学校が楽しかったかな？ 友達と遊んだかな？ 夏休みは楽しかったかな？ 学校が楽しかったかな？ 友達と遊んだかな？

1週間の無料でものキャンペーン
9月2日(月)～9月8日(日) 夕方5時～夜10時
電話番号 **0120-** -

1週間だけいつもよりおしゃべりしています。
ひとりじゃないよ。
話したいことはなんでもいいし、電話待っているからね。



チャイルドラインとは？
チャイルドラインとは、子どもが安心して話せる場所です。
チャイルドラインでは、子どもが安心して話せる場所です。
チャイルドラインでは、子どもが安心して話せる場所です。

う、という設立当初に掲げていた目標が希薄になることは否めません。昨年、滋賀県大津市でいじめにより子どもがいじめを絶つという痛ましい事件が起こり、再びいじめの問題が社会的にクローズアップされました。いじめ対策を講じたり、監視の目を光らせたりするのはなく、子どもの声に耳を傾け、その気持ちに寄り添うことに立ち返らうと、せたがやチャイルドラインでは、2012年の夏休み明けの1週間、「いじめ専用電話」キャンペーンを実施しました。夏休みが明けて学校が再び始まる頃、子どもたちの気持ちに不安定になると考えられるからです。そして、今年も、新学期が始まる9月2日から8日までの1週間、「せたがや専用フリーダイヤル電話」を特設しました。

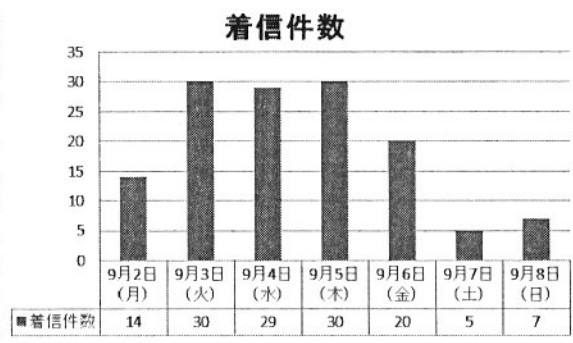
た。配ったチラシは7万7千枚。区立小中学校、区内の私立学校、都立高校あわせて153校の子どもの手に渡ったはずだ。

人間関係に気がつかう子どもたち

2回線で17時から22時まで、電話を受ける「受け手」と、受け手を支える「支え手」が待機して迎えた9月2日、受けた電話は14件。話し中で受けられなかった電話も32件ありました。2日目、3日目と件数はどんどん増え、受け手の数を確保するのが大変なほどでした。一週間で受けられた電話件数は135件(昨年は71件)、回線がふさがっている間のアクセス件数も入れると、かかってきた電話は全部で253件でした。「いじめ専用電話」としなかつたため「ともかく、かけてみよう」と思ってくれた子どもたちが多いたというでしょう。キャンペーンの前半は、小学校低学年と思われる

地域に立ち返り、子どもの声を聴く

「いじめよ、とまれ！」を合言葉に、地域の大人たちがネットワークを組み、いじめに苦しみ悩む子どもたちを真ん中にして、何ができるかを考えよう、と始まった「世田谷こどもいのちのネットワーク」。そのメンバーが「チャイルドライン」発祥の地イギリスへ視察に出かけ、1998年に2週間限定の24時間電話を試行したのが、日本で初めてのチャイルドラインでした。そして2000年からせたがやチャイルドラインが常設化されました。現在では44都道府県で75団体のチャイルドラインが活動し、全国共通フリーダイヤルで子どもたちは電話代を負担することなくかけられます。全国どこからでもつながるので、チャイルドラインのない地域の子どもの声も受けることができる半面、地域の子どもの声を地域の人々が支えてい



る電話が多く、後半になるにつれ高学年、中学生の電話が増えました。土日の件数が少ないのは、親と一緒に過ごす環境を反映したものでしょう。平日も、夕食の時間になると電話がなくなる、という傾向がありました。

常設のチャイルドラインと同じ

